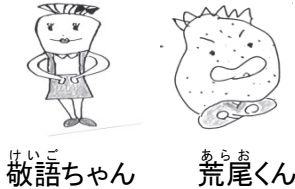


# 俳句の基本知識

俳句とは、5・7・5の17音を定型とする短詩です。江戸時代、松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶らによって発展しました。そして明治時代、正岡子規により、現代に繋がる「俳句」が確立されました。

以下は、子どもと俳句学習を進めて行く上で必要な、俳句の基本知識です。I～III課題のナビゲーターとして登場する、敬語ちゃんと荒尾くんが、「俳句のきまり」を解説します。

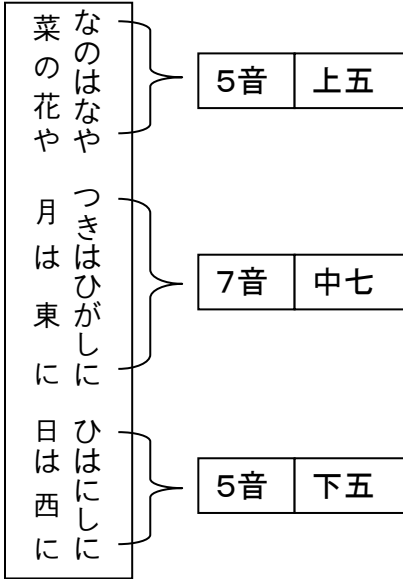
◎ことばのテーブルでは、以下のきまりのうち、①の「5・7・5のリズム」だけを守り、俳句を作ってもらっています。



敬語ちゃんと荒尾くんは、ことばのテーブルの敬語・俗語教材の登場キャラクターです。

## 俳句のきまり ①

俳句は、5・7・5の音のリズムで詠まれます。5・7・5の17音を守ることが、いちばん大切です。



### 【音の数え方～ひらがなの対応～】

- ①「あ～ん」までの音(文字)と濁音・半濁音は、1字で1音として数える。例: たんぼ(3音)
  - ②拗音(きゃ、じゅなど)は、2字で1音として数える。例: しゅくだい(4音)
  - ③促音(小さい「っ」と長音(のばす音))は、1字で1音として数える。例: きうて(3音)、ほうき(3音)、スケート(4音)
- \* 難しい音の数え方の例  
 チューリップ(5音) ジャンプー(4音)など

## 俳句のきまり ②

俳句には、季語があるぜ。季語は、季節を表すことばで、ひとつの句に、ひとつ入っているんだ。



【代表的な季語】 ○春(桜、雛祭り、遠足) ○夏(プール、花火、蛍) ○秋(鈴虫・紅葉・栗)  
○冬(雪・正月・スキー) など ※季語のない俳句もあり無季俳句と呼ばれる。

## 俳句のきまり ③

俳句には、切れがあります。「切れ」とは、切れ字などを使って句を切り、感動の中心を表します。



【代表的な切れ字】古語:「かな・や・ぞ・けり」など。現在のことばでは、「な・よ・ね」など。